

優曇華 [UDONGE]

Version du 24/12/2012

Voici pour ceux que ça intéresserait, une version du texte japonais de *Udonge*. Il contient de nombreux caractères anciens (certains existent aussi dans une graphie simplifiée).

Les numéros correspondent approximativement aux paragraphes de la traduction de Yoko Orimo que vous trouvez sur le blog <http://www.shobogenzo.eu>, blog sur lequel vous avez beaucoup d'autres merveilles !

Christiane Marmèche

1. 靈山百萬衆前、世尊拈優曇華瞬目。于時摩訶迦葉、破顔微笑。世尊云、我有正法眼藏涅槃妙心、附屬摩訶迦葉。

2. 七佛諸佛はおなじく拈華來なり、これを向上の拈華と修證現成せるなり。直下の拈花と裂破開明せり。しかあればすなはち、拈華裏の向上向下、自他表裡等、ともに渾華拈なり。華量佛量、心量身量なり。いく拈華も面面の嫡嫡なり。附屬有在なり。世尊拈華來、なほ放下著いまだし。拈華世尊來、ときに嗣世尊なり。拈花時すなはち盡時のゆゑに同參世尊なり、同拈華なり。

3. いはゆる拈花といふは、花拈華なり。梅華春花、雪花蓮華等なり。いはくの梅花の五葉は三百六十餘會なり、五千四十八卷なり、三乘十二分教なり、三賢十聖なり。これによりて三賢十聖およ

ばざるなり。大藏あり、奇特あり、これを華開世界起といふ。

4. 一華開五葉、結果自然成とは、渾身是己掛渾身なり。桃花をみて眼睛を打失し、翠竹をきくに耳處を不現ならしむる、拈花の而今なり。腰雪斷臂、禮拜得髓する、花自開なり。石碓米白、夜半傳衣する、華已拈なり。これら世尊手裡の命根なり。

5. おほよそ拈華は世尊成道より已前にあり、世尊成道と同時なり、世尊成道よりものちにあり。これによりて、華成道なり。拈華はるかにこれらの時節を超越せり。諸佛諸祖の發心發足、修證保任、ともに拈華の春風を蝶舞するなり。

6. しかあれば、いま瞿曇世尊、はなのなかに身をいれ、空のなかに身をかくせるによりて、鼻孔をとるべし、虚空をとれり、拈華と稱ず。拈花は眼睛にて拈ず、心識にて拈ず、鼻孔にて拈ず、華拈にて拈ずるなり。おほよそこの山かは天地、日月風雨、人畜草木のいろいろ、角角拈來せる、すなはちこれ拈優曇花なり。生死去來も、はなのいろいろなり、はなの光明なり。いまわれらが、かくのごとく參學する、拈華來なり。

7. 佛言、譬如優曇花、一切皆愛樂。いはくの一切は、現身藏身の佛祖なり、草木昆蟲の自有光明在なり。皆愛樂とは、面面の皮肉骨髓、いまし活鱗鱗地なり。しかあればすなはち、一切はみな優曇華なり。かるがゆゑに、すなはちこれをまれなりといふ。

8. 瞬目とは、樹下に打坐して明星に眼睛を換却せしときなり。このとき摩訶迦葉、破顔微笑するなり。顔容はやく破して拈華顔に換却せり。如來瞬目のときに、われらが眼睛はやく打失しきたれり。この如來瞬目、すなはち拈華なり。優曇華のころろづからひらくるなり。拈花の正當恁麼時は、一切の瞿曇、一切の迦葉、一切の衆生、一切のわれら、ともに一隻の手をのべて、おなじく拈華すること、只今までもいまだやまざるなり。さらに手裡藏身三昧あるがゆゑに、四大五陰といふなり。

9. 我有は附囑なり、附囑は我有なり。附囑はかならず我有に罣礙せらるるなり。我有は頂寧なり。その參學は、頂寧量を巴鼻して參學するなり。我有を拈じて附囑に換却するとき、保任正法眼藏なり。

10. 祖師西來、これ拈花來なり。拈華を弄精魂といふ。弄精魂とは、祇管打坐、脱落身心なり。佛となり祖となるを弄精魂といふ、著衣喫飯を弄精魂といふなり。おほよそ佛祖極則事、かならず弄精魂なり。佛殿に相見せられ、僧堂を相見する、はなにいろいろいよいよそなはり、いろにひかりますますかさなるなり。さらに僧堂いま板をとりて雲中に拍し、佛殿いま笙をふくんで水底にふく。到恁麼のとき、あやまりて梅華引を吹起せり。

11. いはゆる先師古佛いはく、
瞿曇打失眼睛時、
雪裡梅花只一枝。
而今到處成荊棘、
却笑春風繚亂吹。

12. いま如來の眼睛あやまりて梅花となれり。
梅花いま彌綸せる荊棘をなせり。如來は眼睛に藏身し、眼睛は梅花に藏身す、梅花は荊棘に藏身せり。いまかへりて春風をふく。しかもかくのごとくなりといへども、桃花樂を慶快す。

13. 先師天童古佛云、靈雲見處桃花開、天童見處桃花落。

14. しるべし、桃花開は靈雲の見處なり、直至如今更不疑なり。桃花落は天童の見處なり。桃花のひらくるは春のかぜにもよほされ、桃花のおつるは春のかぜににくまる。たとひ春風ふかく桃花をにくむとも、桃花おちて身心脱落せん。

正法眼藏優曇華第六十四

爾時寬元二年甲辰二月十二日在越宇吉峰精藍示衆